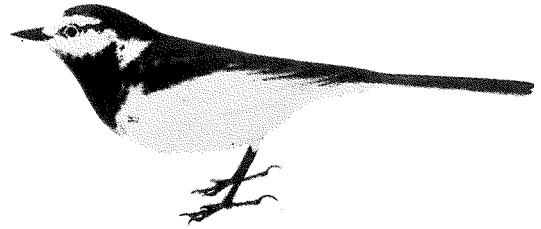


あるむぜお

府中市郷土の森だより

No.29

al museo



常設展示の野鳥たち 2

セグロセキレイ

Motacilla grandis (左上)

ハクセキレイ

Motacilla alba (上)

キセキレイ

Motacilla cinerea (左)

スズメ目セキレイ科

(常設展“多摩川の野鳥”から

バードカービングのセキレイ3種)

多摩川 の川原を散歩していると、石の上で何かをつついたり、瞬間飛び上がっては、空中の昆虫を捕らえている、尾の長い小鳥をよく見かけます。これらはセキレイの仲間です。日本では6種類のセキレイが観察されていますが、特によく見られるものが、上の写真で紹介しているセグロセキレイ・ハクセキレイ・キセキレイの3種類です。

セグロセキレイは、韓国の一部で繁殖が確認されていますが、主には日本に分布している鳥です。北は北海道から南は九州まで、ほぼ一年中見ることができますが、北の個体群は冬に南下していることが観察されています。

ハクセキレイは、ユーラシア大陸に広く分布し、11または12の亜種に分けられています。日

本では、関東地方以北から北海道にかけてと、中国地方、九州地方の一部で繁殖しているものの、ほとんどの地域について冬にしか見られないことが多いようです。ちなみに、昨年度の多摩川では、是政橋付近から関戸橋付近までの観察記録によると、ハクセキレイは、ほぼ一年中目撃されています。(府中野鳥クラブの報告から)

キセキレイは、ユーラシア大陸、アフリカの中南部に広く分布し、日本では、ほぼ一年中見ることができます。ただし、個体別に見ると、季節によって入れ替わっているようです。どちらかといえば、河川の上流域山間部に多く見られる種類で、溪流沿いの樹上の茂みなどを利用して営巣します。(N)



芝居と踊りと音楽によって構成される歌舞伎。その衣裳には、際立った色彩で大胆な文様が施され、舞台装置とともに絢爛華麗な歌舞伎の世界を創出

歌舞伎

ん、この地芝居も幕府や明治政府の禁圧を受けましたが、農村における最大の娯楽として生きづき長く行われました。そして最近では、地芝居で用いられた衣裳のなかに年代のさかのぼる作品が残されていることが判明してきています。



するのに欠くことのできないものでした。役者の本領が「芸」にあることはいうまでもありませんが、演目に適した衣裳を作りあげるのもセンスの見せ所で、その出来栄えは人気を左右するほど重要でした。

したがって、歌舞伎衣裳は興行の度に新調されることが多かったといえます。歌舞伎は江戸時代に上方や江戸の町人たちの支持のもとに形を整えた芸能ですが、大衆であったために幕府の統制の対象となり、衣裳の製作まで規制が及びました。これが完全に守られた様子は見られないものの、豪華な素材をふんだんに使った衣裳を製作することは難しく、ひとつの興行が終われば別の衣裳に作り直すことも頻繁に行われました。

したがって、その遺品はきわめて僅かな量が知られているにすぎません。



本展で紹介する群馬県勢多郡富士見村のよこむら横室

地区に伝えられた歌舞伎衣裳もそのひとつです。

200~300点に及ぶその衣裳は幕末から明治期の作品が大半を占めるといえます。記録によれば、江戸で用いられた中古品を頻繁に購入し、近在の村々へ貸し出しもしています。なかには7代目市川團十郎所用と伝えられる衣裳もあり、当時の歌舞伎衣裳の実態を知る上で最大の資料群といってよいでしょう。

今回の展示ではこのうちの僅か21件を陳列するにすぎません

が、歌舞伎衣裳に独特の色づかいと奇抜な意匠を十分に堪能できることと思います。

とはいうものの、長い間頻繁に用いられてきた衣裳ですから、決して保存状態が優れているわけではありません。

しかしそこには、度重なる禁圧をかいくぐって地芝居を続けてきた人々の情熱を感じとることができます。(F)



しかし、歌舞伎は上方や江戸といった都市に限られたものではありません。やがて村々では、村人たち自らが演じる地芝居が盛んになりました。おろ

衣裳展



身近な 歴史入門講座 その4

さて、とりあえず史料を文字によるものに限ってみても、地域にどの様なものがどれ位残っているかを個人が調査するのはかなりの困難を伴います。普通は市町村史の編さんなどを機会に、自治体が主体となって一斉に調査し、保存も考えていくという例が多い様です。

しかしこの様な時は、大抵、時間に追われての仕事になるので、仲々一点づつ丁寧に読んでいく訳にはいきません。何人かでチームを作り、古文書のある程度まとまって持っている一軒ごとに、ざっと眼を通した後、内容によって大別し、次にその科目ごとに年代順に並べて史料目録を作成するというのがオーソドックスな方法です。最近は分類や並び換えを得意とするコンピューターという強い味方ができましたので、目録のデータベース化も検討されてきています。ただし古文書用語は現代用語とかなり違いますので打込の際にはちょっと面倒な事もあります。

府中市の場合は、1960年代にやはり市史編さん室が中心になり市内の古文書調査がされました。その結果、18000点程の所在が把握されました。この内、大きな事件に関わるものや、歴史上のトピックスになるものは市史の記述の材料となったり、史料集に収録したりされてきましたが、全てがその様な扱いは受けられません。

これらの古文書類は各々の事情により、所蔵者のお宅で保存されている物もありますし、博物館で預っているものもあります。勿論これらの中には全く個人的な文書もありますので、全てが公開される事は難しいでしょうが、地域の歴史を知る為には必要に応じて個人の閲覧もできる様になるのが望ましいと思われれます。しかし逆にどれも唯一のものでありますから傷みや破損から守る事も重要です。この矛盾を解決する為に、当館では徐々にですがマイクロフィルム化を進め、通常はその利用で対応しています。

では少し話を戻して、これらの古文書の中に自分に関する事柄を見つけたとしましょう。果たし

てスラスラと内容を読み解けるでしょうか。江戸時代の文書は用字、用語ともに現代語と異なっています。本当に身近な歴史を自分で掘り起こすとなると、それらがいつか活字化されるのを待つだけでなく、自分で読みたくなるでしょう。

古文書を読む勉強は、初めはチンプンカンプン、少し分る様になるととかく文字を読む事がパズルの様に面白くて内容を考えずに字面だけを追い勝ちです。当館でも初級向けに“歴史講座”少し勉強された方向向けに“古文書中級講座”を開いていますが、講座の目的は地域の古文書をテキストにして近世史を学びましょう、としています。これは文字として古文書が読めるだけでなく、史料としてその内容も理解できる様に概説的な勉強も合わせてみましょう、という事です。



歴史講座風景

これらの会を通じて勉強する事は、一面では回りくどくて、すぐに欲しい答の出る方法ではありません。しかししばらく続けるうちに、たとえ自分の家の事が直接分からなくても、それを含めた村なり町なりの社会の歴史を分ろうとする面白さに出会える筈です。そうなれば各文書の背景を推察し、相互の関連を見つけ出し、何が歴史の事実或は真実だったのかを組立ててみる事も可能になります。そういう方達の層が厚くなって初めて、地域の歴史、身近な歴史の細部の解明が進み、個人の歴史と重ね合わせる事も容易になることでしょう。身近な歴史ほど実体を掘るのは意外に大変ですが、あきらめずには是非挑戦してください。(B-h a)

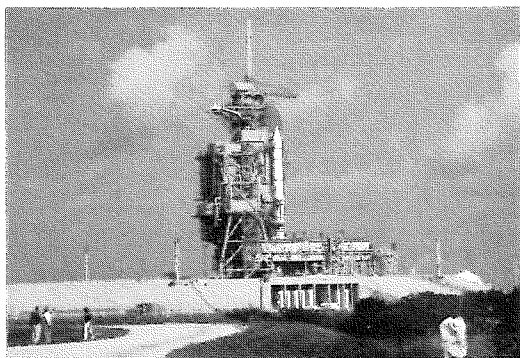
スペースシャトル打ち上げ見聞録

本間 隆幸

——シャトル打ち上げ

今、まさにその時を待つスペースシャトル、「コロンビア」。そこから9キロメートル弱の距離に用意された見学場には、向井千秋さんの応援に駆けつけた100人前後の日本人も含めて、数百人も人が集まりました。ここ以外の場所でも、さらに多くの人々が固唾を飲んで見守っています。

太陽はほぼ頭の真上から容赦なく照りつけ、陽炎の向こうに39A発射台にのったコロンビア号が小さく見えています。前日、ケネディー宇宙センターを訪れたとき、間近に見たあのシャトルです。その時は、保護のためコロンビア号には、銀色のカバーが施されており、見えるのは白い固体ロケットブースターと、オレンジ色の外部タンクのみでした。しかし、今は白い機体がはっきりと見えています。



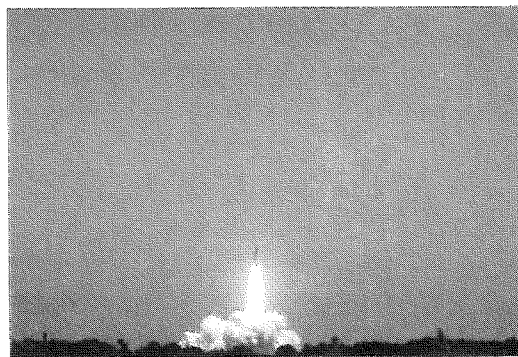
打ち上げ前日のシャトル

辺りには、カメラや双眼鏡、さらには大きな望遠鏡まで持ち込んで、打ち上げの様子を見ようという、随分と入れこんだ人も多く見られます。中には子供連れの家族の姿も見え、遠足気分の人たちもいるようです。しかし、シャトル打ち上げの成功を祈る気持ちは、みな同じに違いありません。

ここフロリダ州、ケネディー宇宙センターのバナナリバー沿いにある打ち上げ見学場は、緊

張に包まれています。スピーカーからは、「Tマイナス40秒」と告げられ、見学場はその瞬間を待ち続けています。カウントダウンが6秒を告げた時、シャトルのメインエンジンにピカッと閃光がきらめきました。あっという間にスペースシャトルは煙に包まれていきます。12時43分、「リフトオフ」のアナウンスが聞こえると同時に、拍手と大歓声が沸き起こりました。いつも遅れがちなシャトルの打ち上げですが、向井さんを乗せた今回は、1992年9月12日の毛利衛さんを乗せたエンデバー号の時と同様に、時間通りの打ち上げでした。日本人とシャトルの相性はいいようです。

間もなく、煙の中からコロンビア号が姿を現しました。総重量2000トンもの機体が重そうに少しずつ上昇していきます。推力3000トンを越えるにしては、思いのほかゆっくりと持ち上がる様子に、かえって地球の重力に逆らっていく力強さを感じ、このまま無事宇宙空間まで到達できるであろうという確信を持ちました。



上昇するコロンビア号

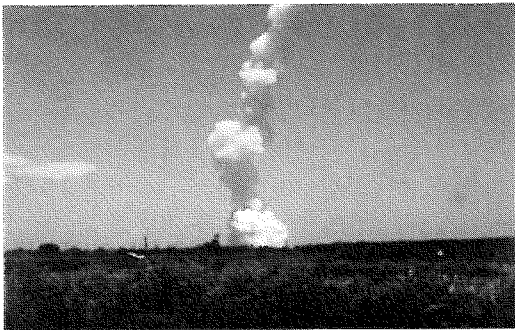
空を引き裂くような大音響があたりを包んだのは、リフトオフ後30秒もたってからのことでした。すぐ近くで見ているつもりでしたが、改めて発射台までの距離を感じました。人々の視線はゆっくりと、そして着実に上昇していくシャトルに釘付けされたままでした。

思い起せば、今から13年前の1981年4月12日午前7時、スペースシャトルとして、初めて宇宙へと飛び立っていったのもこのコロンビア号だったのです。

固体ロケットブースターからは、オレンジ色の巨大な光の柱が機体の長さを越えるほどに噴出し、高度が上がるにつれ、スピードはぐんぐんと増していきます。真上に向かっていったコロンビアは、少しずつ東の方向、大西洋上空に傾きながら空を突き進んでいきます。もはや肉眼で、機体の形を確認するのが難しくなりつつあります。

あの1986年のチャレンジャー号爆発は、リフトオフから2分もたたないうちに起こった悲劇でした。

非常に長い2分の後、無事に補助ブースターが切り放され、見学場に2回目の歓声が上がりました。そして、昼間の金星のような輝きから間もなく、シャトルの光は空へと溶けていったのです。太陽の強い日差しを急に思い出したかのように、満足気な表情を浮かべながら人々はその場を去っていきます。振り返ると、発射台には、高く空へのびる龍のような白い煙が残されていました。



打ち上げ後のランチポッド39A

沢山の任務を帯びたクルー、日本人女性として初の宇宙飛行士・向井千秋さんを乗せたスペースシャトルは、こうして地上を後にし、無事宇宙へと旅立っていきました。アメリカ東部夏時間、1994年7月8日のことです。彼らにはこれから14日間、宇宙での任務が待っています。本当の仕事は始まったばかりなのです。地上約300キロメートル、地球を90分で1周する軌道

上がフィールドとなるのです。

——国際微小重力実験室

コロンビアの乗員は7名で、向井千秋さん他3名が初フライトとなりました。

このシャトルの主な任務は、国際微小重力実験室（The Second International Microgravity Laboratory = IML-2）の科学実験で、82もの実験を行うことです。これらはNASAをはじめ、ヨーロッパ宇宙機構（CNES）、ドイツ宇宙機構（DARA）、カナダ宇宙機構（CSA）、そして日本の宇宙開発事業団（NASDA）から提案された実験です。この中には日本が提案し実行された「イモリ・メダカ・金魚」などの実験も含まれ、今回の実験では一番の人気となりました。



今回のミッションで使われたマーク

今後のフライトスケジュールは、1994年8月18日に6名の乗員を乗せてエンデバーが、9月9日には6名の乗員を乗せてディスカバリーが、10月27日には6名の乗員を乗せてアトランティスガ、そして年明けには再びコロンビアが打ち上げられる予定です。日本のH IIロケットが年に2度しか打ち上げられないことを考えると、さすがシャトルは頑張りますね。聞くとところによると、来年の打ち上げにも日本人の若田光一さんが、乗員として参加するそうです。

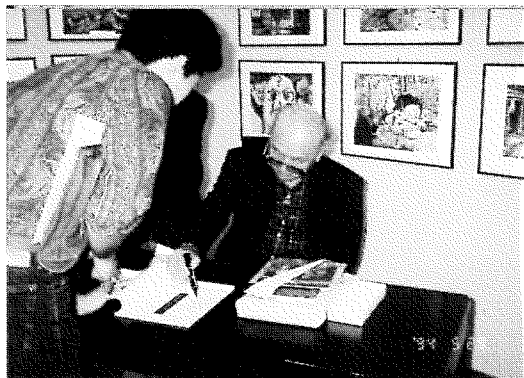
今回取材の資料は、機会を見て、プラネタリウム、星空観測会などに活用していく予定です。

カ
メ
ラ
ア
ン
グ

水木しげる原画展
回想録 5/29~7/3



オープニングに景気のよい大行列は、水木しげる先生のサイン欲しさの数10メートル！



威風堂々。ゲゲゲの鬼太郎は、この手から誕生したのです。軽やかな速度で、マジックは色紙の上をすべっていく。ああ、感激！



会場も大にぎわい。一枚一枚の原画を見つめる熱心なまなざし。



子供たちには、特設妖怪ジオラマが大人気。子なきじいじもうれしそう。



妖怪たちとのご対面。本当はこわいんだけど、友だちといっしょだからへつちやらさ。やるんなら、かかってこいよ！



もうひとつのお楽しみは、旧越智家住宅でのおはなし会。妖怪たちにかこまれながらのコワ〜イ語りは、演出効果満点でした。それにしても、連日興行で頑張ってくれた、のんのんばあの皆様、本当にご苦労様でした。

＝最近の発掘調査から＝

『私は展示会場で塼を見た瞬間に、これは武蔵国府の正殿に敷かれていたものに間違いないと考えました。奈良時代に塼が基壇に敷かれているような建物は極めて少ないことから、大国魂神社の東側、すなわち宮之咩神社の東側に正殿の跡が存在することは明らかであると、最初に申し上げたいと思った次第でございます。』

ここにご紹介したのは、今年の1月に開催された「武蔵国府最新出土資料展」における、大正大学名誉教授斎藤 忠先生の講演会冒頭のお話です。今回は、講演会の際に斎藤先生が強い印象を持たれた塼が、いかに重要な意味を持つのかお話ししたいと思います。

塼とは、現在のレンガまたはタイルにあたります。主に、古代の宮殿や寺院の中心施設となるような建物の基壇等に用いられ、床に敷いたり、壁に積んだり、貼り付けたりするものです。市内では、特に大国魂神社境内東側の一帯で、塼が多量に見つかっています。この地域ではこれまでの調査で、大型の掘立柱建物跡や礎石建物跡が確認され、なかには、長さが20m以上の大型の建物もあります。その際、多量の瓦とともに400点に及ぶ塼が見つかっています。今回紹介する塼は、以前調査された地区の西隣で、幅1m、長さ3m、深さ50cm程の所から、約20個体分見つかりました。



これまで塼の使用方法がわかっている例は、平城宮跡大極殿院の基壇が知られています。ここでは、長方形の塼を積み上げて擁壁とし、総計1万6000個以上用いられたとされています。今回大国魂神社東側で見つかった塼は、一辺が26～27.5cmの方形で、厚さが7.5cm前後のものと9cm前後の2種類あります。重さは、約11.5kgもあります。塼が方形ということは、平城宮跡のように基壇の擁壁に用いられたのではなく、基壇上に敷き詰められたものと考えられます。このような塼敷基壇を有する建物とは、ひときわ立派で大きなものだったことでしょう。

さらに重要なことは、塼に文字がスタンプされているものがあることです。この文字は、古代の武蔵国に21あった郡の名前と同じものが多く、21郡のうち15郡にもぼっています。このことは、国府政庁(国庁)を取り巻く役所群(国衙)を造営するにあたって、国内の各郡から塼が貢納されたことを表しています。これまで見つかっている塼は、役所群の中で重要な建物1棟分の基壇に値する量で、国府政庁(国庁)の中心部分の基壇となると、相当な量の塼が必要とされます。そのため各郡が分担して塼を貢納したのでしょう。まさに郡名が記された塼が多量に出土していることは、国府の中心である役所群(国衙)の造営事業が、武蔵国の国力を結集して行われたことを物語っています。

大国魂神社東側の所から新たに多量の郡名塼が見つかったことで、武蔵国府の実態解明への道が、また一歩前進したと言えるでしょう。

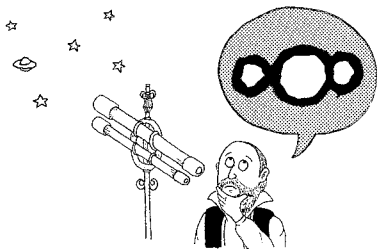
(大国魂神社立ち会い地区の調査から 江口)

あれこれ

—わくわく惑星めぐり—
土星の環が消えてなくなる？

今秋、南の空にある「みずがめ座」に黄色みがかった明るい星が輝いています。この星が美しく大きな環をもつことで有名な惑星「土星」なのです。秋の星座には明るい星が少ないので、みなさんにも簡単に見つけれられるでしょう。小口径の望遠鏡でも、40倍程度の倍率から環の形を楽しむことができます。この秋、ぜひ望遠鏡を向けて、その美しい姿を観察してみましょう。

土星を望遠鏡で最初に見た人は、みなさんご存じのイタリアの科学者ガリレオ・ガリレイです。1610年、ガリレオは「土星の両側には耳がついている」という観察記録を残しています。



当時の望遠鏡はそれほど性能がよくなかったので、土星の環が耳のようにしか見えなかったのです。その耳も2年後には消えてしまったため、ガリレオはとても驚きました。ガリレオには、土星が耳を食べてしまったように思えたのです。

ガリレオはなぜ土星が耳を食べてしまったと考えたのでしょうか？土星の英語名サターンは、ギリシャ神話の中ではクロノスという、全宇宙を支配している神様のことなのです。クロノスはいつか自分の子供に殺されてしまうのではないかと恐れ、生まれた子供を次々と飲み込んでいました。しかし、クロノスの妻が末っ子を隠したため、やがて成長したその子によってクロノスは倒されてしまったのです。ガリレオは土星の耳をクロノスの子供にたとえ、耳が消えたときに「サターンは今でも子供を食べているのか」と驚いたといわれています。その40数年後、オランダの天文学者ホイヘンスの観察によって、土星の耳は環であることが発見されたのです。

ガリレオも驚いた「土星の環の消失」が、来年から1996年にかけて数回起こります。この現象は、土星の自転軸が26.7°傾いていることから約15年周期で、地球から土星の輪を真横に見る位置となるためです。土星の環が発見されたころは、それは一枚板のようなものでできていると考えられていましたが、惑星探査機ボイジャーの観測によって、氷やちりのできた小さな塊がたくさん集まったものだとわかったのです。土星の環は直径に比べてとても薄く、数百mしかありません。真横から見ると、環が消えてしまったように感じるのも無理のないことです。

さあ、今年の秋は環が見えているうちに、土星に望遠鏡を向けて観察しておきましょう！

(B-hi)

インフォメーション

伝統芸能と縁日の森 10月8日～10日の3日間

この秋、郷土の森では、府中市制40周年を記念して、楽しい企画を予定しています。

プラネタリウムでは、日本の美を撮り続ける写真家・日弁貞夫氏の映像をバックに、上原まりの筑前琵琶・坂田明のサクソによる生演奏をお届けするファンタジック・プラネタリウム。旧田中家住宅では、10日夕刻より無形文化財記録保持者・岡本文弥の新内。

その他、落語、紙芝居、野点茶会、大道芸、フ

リーマーケットなど、盛り沢山のメニューが満載です。歌舞伎衣裳展もあわせてご覧ください。

あるむせお	第29号
al museo	イタリア語 “博物館で” “博物館にて” の意
発行日	1994年9月20日
発行	(財)府中文化振興財団 府中市郷土の森 〒183 東京都府中市南町6-32 ☎0423-68-7921